

## 会 議 録

会議の名称		平成26年度磐田市防災会議		
開催日時		平成26年8月28日(木) 開会：午後1時25分 閉会：午後2時20分		
開催場所		磐田市役所 防災センター2階 災害対策本部室		
出席者	委員	加藤委員(代理 竹田)、守屋委員(代理 澤田)、梨本委員(代理 小池)、廣岡委員、岡村委員、寺田委員、天野委員、相浦委員(代理 中村)、児玉委員、松浦委員、安井委員、仲野委員、本田委員、杉田委員(代理 川島)、宮崎委員(代理 安田)、堀内委員、安井委員、川島委員、渡部委員、飯田委員、粟倉委員、山下委員		
	事務局 (危機管理課)	石川総務部長、鈴木危機管理課長、河島防災アドバイザー、鈴木課長補佐、寺田主幹、伊藤主査、丸尾主任		
公開・非公開の状況		公 開	傍聴者数	報道 1名
会議次第		1 開 会 2 会長あいさつ 3 委嘱状の交付 4 議 事 (1)会議録署名人の指名について (2)磐田市防災会議の運営について 会議の公開について 会議録の公開について (3)磐田市地域防災計画の一部修正、新規策定について 修正案の説明(地震・津波災害対策編) 修正案の審議 5 報 告 磐田市海岸堤防整備計画について 6 意見交換 7 閉 会		

## 磐田市防災会議委員名簿

	防災会議 役職	機 関 名	氏 名	出欠	代理出席者 職氏名
1	会 長	磐田市長	渡部 修	○	
2	委 員	磐田市副市長	鈴木 裕	×	
3	委 員	国土交通省中部地方整備局 浜松河川国道事務所長	加藤 史訓	△	副所長 竹田達也
4	委 員	静岡県西部危機管理局長	守屋 文雄	△	副局長 澤田元則
5	委 員	静岡県袋井土木事務所長	梨本 和則	△	維持管理課長 小池哲雄
6	委 員	静岡県西部健康福祉センター 所長	廣岡 辰典	△	医監兼保健所長 安間 剛
7	委 員	静岡県中遠農林事務所長	岡村 孝	○	
8	委 員	静岡県磐田警察署長	武村 和典	×	
9	委 員	磐田市教育委員会教育長	飯田 正人	○	
10	委 員	磐田市危機管理監	山下 重仁	○	
11	委 員	磐田市消防本部消防長	栗倉 義弘	○	
12	委 員	磐田市消防団長	寺田 博紀	○	
13	委 員	東海旅客鉄道株式会社 磐田駅長	天野 正孝	○	
14	委 員	西日本電信電話株式会社 静岡支店長	相浦 司	△	設備部西部FSCセンタ長 中村通伸
15	委 員	日本通運株式会社 浜松支店長	酒井 博行	×	
16	委 員	中部電力株式会社 磐田営業所長	児玉 登	○	
17	委 員	社団法人静岡県トラック協会 中遠支部長	松浦 明	○	
18	委 員	遠州鉄道株式会社 磐田営業所 所長	安井 茂利	○	
19	委 員	中部ガス株式会社 浜松支店長	仲野 哲央	○	
20	委 員	社団法人磐田市医師会 会長	本田 仁	○	
21	委 員	磐田市自治会連合会長	杉田 友司	△	副会長 川島安一
22	委 員	磐田商工会議所会頭	高木 昭三	×	
23	委 員	遠州中央農業協同組合 代表理事理事長	宮崎 剛	△	見付支店 基幹支店長 安田博俊
24	委 員	磐田市建設事業協同組合 理事長	堀内 豊	○	
25	委 員	遠州漁業協同組合 代表理事組合長	安井 洋一	○	
26	委 員	磐田市赤十字奉仕団 代表者	川島 厚枝	○	

※出欠欄 ○ 本人出席  
△ 代理出席  
× 欠 席

事務局	<p>定刻前ではございますが、予定されている皆様がお揃いですので、ただ今から「磐田市防災会議」を開会いたします。</p> <p>本日の進行を務めます、危機管理課長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。着席して進行をさせていただきます。</p> <p>最初に、防災会議の会長であります磐田市長からごあいさつを申し上げます。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>皆さんこんにちは。この平日のお忙しい時間帯にご参集いただきまして誠にありがとうございます。市の会議に優劣上下はないのですが、この防災会議というのは出席していただいているメンバーを見ていただきますと、本当に上位の上位の最高位に位置している会議だと私は思っています。</p> <p>今回、法令にのっとって修正を審議していただく訳ですが、今発災から一週間がたった訳ですが、広島の方では大変な状況下にありますけれども、千年、数千年に一度といわれています南海トラフの地震も大きな心配の種でございますが、実は昨今見ておりますと皆さんご存知のとおり、ゲリラ豪雨ということが、ゲリラではなくなって何て言うのでしょうか、本当に磐田市内の中でも字が違えば、こっちは曇りでそちらの方は100mmを越すような雨みたいなことが、信じられない現象があちこちで起こっております。しかも天気配置図を見ますと停滞しているものですから、からっとすぐ晴れあがるというよりも何日か続くみたいなのところでああいう災害が起こる。</p> <p>時間雨量50mmといっても相当な雨なのですが100mmを超える200mmに近づくみたいなことがあったら、これはすぐ起こって避難勧告を出す方がいいかどうか迷うような状況であります。国は指針で、できるだけ早く躊躇せずにといわれておりますけれども、時間帯によっては、誰か逆の立場になっても躊躇するということが起こってくるでしょう。</p> <p>広島の例でいきますと、早いうちからわかることであれば昼間のうちに勧告等々を出して、磐田市は自治会連合会と自主防災会が合同の組織体になりましたので、流れというものがよくよく頭の隅に置いておいて頂いて、われわれも躊躇なく出せるということの意見交換等々をやっていきませんか少し怖いという昨今の状況下でございます。</p> <p>長くなりましたけれど、本日は主に修正案を皆さんにご審議いただく訳ですが、これが載っているのと、載っていない施設とどう違うのだということをおわかり易く、職員に説明させますが、今回の事例の中では、国庫補助事業も含まれておまして、補助率が変わってくるということもございます。そういう意味では少し分かりにくいところがあるかもしれませんが、できるだけ疑問点がございましたら質問なり、質疑なりお願いできればと思っております。</p> <p>本日はできるだけ効率よく行いますし、今月の18日には、防潮堤の安全祈願祭が竜洋の地で行われまして、浜松と整備手法は違うのですが、今日も袋井市で出ておりました、前日には掛川市で出ており、この中東遠静岡モデルという形の中で進めていきたい、このようなこともスライドを通し</p>

<p>事務局</p>	<p>て、皆さんに少し知って頂こうと思ひまして、後々の後半の時間に用意をしてございますのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>今回、人事異動等に伴ひまして、市長を除く委員25名のうち9名の方が新たに委員に就任されました。</p> <p>「磐田市防災会議条例」第3条の規定に基づきまして、本来でしたら委嘱状の交付を行うところでございますが、時間の都合上、本日ご出席の委員の皆様には、お手元にお配りさせていただきましたので、ご了解をお願いいたします。</p> <p>続きまして、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>はじめに、「磐田市防災会議次第」でございます。次に、両面刷りの「磐田市防災会議委員名簿」、「防災会議席次表」でございます。3点目「磐田市地域防災計画修正案新旧対照表」でございます。4点目が「磐田市地域防災計画の修正案概要」でございます。最後に「磐田市海岸堤防整備計画」の資料でございます。ご確認の上、不足資料がございましたらお知らせください。</p> <p>それでは、次に進みます。</p> <p>本日の会議日程は、お手元の「磐田市防災会議」次第の通りでございます。はじめに「磐田市地域防災計画 地震・津波災害対策編」の一部修正についての審議を行ない、その後、報告、意見交換を行います。</p> <p>報告につきましては、先程話にもございましたように磐田市海岸堤防整備計画について説明を行います。</p> <p>次に、委員の皆様で意見交換、質疑等を行いたいと思ひます。</p> <p>なお、本日委員さんの中で欠席されている方がいらっしゃいます。名簿を見て頂きまして出欠の欄を見て頂きまして、については委員さんが出席して頂いている、が代理の方が出席して頂いている、×が本日都合により欠席となっているということであります。</p> <p>開催前に連絡がありまして磐田市副市長と磐田警察署長が急用により欠席されます。</p> <p>それでは議事に入ります。</p> <p>「磐田市防災会議運営要領」第2条の規定により、本会議の会長である市長に議長をお願いいたします。</p>
<p>議長</p>	<p>それでは、早速、議事に入りたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>まず、(1)の「会議録署名人の指名について」でございますが、中部ガス株式会社浜松支店長「仲野哲央(なかのてつお)」委員と遠州鉄道株式会社磐田営業所長「安井茂利(やすいしげとし)」委員のお2人を指名させていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p>

	<p>続きまして、(2)「磐田市防災会議の運営について」の「会議の公開について」でございますが、市の付属機関の会議につきましては、原則、公開としております。従いまして、本防災会議の会議も公開とさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。</p> <p>なお、傍聴の手続き及び遵守事項につきましては、「磐田市防災会議傍聴要領」の通りとさせていただきますと思います。</p> <p>次に、「会議録の公開について」でございますが、磐田市情報公開条例に基づき、公開とさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。</p> <p>それでは(3)「磐田市地域防災計画 地震・津波災害対策編」の修正案につきまして事務局から説明をさせますので、よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>それでは、「磐田市地域防災計画 地震・津波災害対策編」の修正案についてご説明いたします。</p> <p>お手元の資料「磐田市地域防災計画(地震・津波災害対策編)新旧対照表」修正案概要をご覧ください。</p> <p>今回の地震・津波災害対策編の修正については、「第2編 平常時対策」の「第4章 地震災害予防対策」の最後に「24-18 津波避難対策緊急事業計画の基本となるべき事項」を追加するものです。</p> <p>南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法(平成14年法律第92号)の第5条2項の規定により、津波対策緊急事業の基本となるべき事項について記載をするものです。</p> <p>これは、本市が南海トラフ地震防災推進地域(地震津波避難対策特別強化区域)に指定されているため、防災会議にお諮りいたしまして、津波から避難するための施設その他の避難場所の整備に関する事業計画につきまして具体的な内容を記載するものです。</p> <p>今回は、福田港に建設予定の「食の拠点の複合施設に併設の津波避難タワー」、福田南地区の福田第2保育園跡地に建設予定の津波避難施設「福田北タワー」の2事業について、建設年度等を記載するものです。</p> <p>本日お忙しい中、皆様にお集まりいただいたのは、国の補助をもらうためのスケジュールに間に合わせるために、どうしてもこの時期に防災会議を開催し、この具体的な事業を地域防災計画に記載する必要があったためです。</p> <p>今回おはかりして承認をいただいて、補助金のスケジュールとしては9月に入りましてすぐに事前協議、10月に調整終了、申請という手続になります。</p> <p>簡単ではありますが、以上が説明となります。</p>
議長	<p>課長、イメージ図はありますか。通常の避難タワーだったらいいのですが雁代地域は少し違うので、ご存知の方もいらっしゃると思うのですが資料とかならないのですか。</p>
事務局	<p>資料はありますので、わけて説明します。</p>

<p>議長</p>	<p>この件は、私自身も何度か国の方へ陳情に行きまして、通常でいきますと50%の補助率なのですけれど、3分の2を適用していただけるという前提で、今回のこの修正案となっておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、只今、事務局から簡単に説明をさせていただきましたけれども、何かご質問等がございましたらお願いいたします。</p> <p>如何でしょうか。今日初めて知ったという方もいらっしゃると思いますので、遠慮なく手を挙げていただければと思います。</p> <p>如何ですか。よろしいですか。</p> <p>今、資料を持っていきますが、風力発電を兼ね備えたタワーになります。そこに少しでも雇用を生み出したい、それから磐田の地場産品もということで、その地に食の拠点施設を今検討しておりまして、もう設計に入らんとしているような状況下であります。関係する皆さんとも話しながら、今その東隣に全国大会のサーフィン大会を今年やりまして、全国から集まっていた方から非常に波がいいと評価をいただいておりますので、それやこれやを合わせて、自家発電もし避難もできるという、少し変わった形態のタワーになります。</p> <p>この2段目の福田南地区のタワーについては、通常、磐田市が6か所設置しているタワーと同じような形態になります。今回は、昨年第4次報告がありましたときに、太田川の右岸左岸が少し弱い所があって、今すぐ、県の方が整備をして、3年間でということとされているのですが、そこが破堤したときに若干浸水エリアが広がるということで、そういうことであれば念には念を入れてということで、一つ追加になった位置がこの福田南地区の施設になります。</p>
<p>危機管理監</p>	<p>若干、補足で説明させていただきますが、今、市長が言われた通りで、雁代地区については、風力発電がついた避難施設については、収容人数が400人を予定している施設です。避難場所の高さについては、15mの所です。上の部分に風力発電施設、中間部分が避難施設となります。</p> <p>それから、福田南の避難タワーについては、先程、市長からあったように、通常、今まで作ってきたような6基の避難タワーと同じ仕様の形ですが、収容人数は450人を予定しております。</p>
<p>事務局</p>	<p>補足になるか分かりませんが、概ね説明されておりますが、今お手元にイメージ図、鳥瞰図がいつているかと思いますが、こちらで先程から出ておりますように中間のドーナツ状になったところに避難するというので、展望を兼ねた所になります。その上が風車になっておりまして、こちらが風力発電の設備になります。ロケーション的には既存の魚市場の東側になりまして、今、食の拠点という言葉も出ていましたが、金土日地元漁師さんを中心に食事の提供をして賑わいを創出している所になります。さらに観光、産業の推進を図るということに寄与するということと海岸に来ていただいた方の安全を確保するということを兼ね備えた施設でございます。</p>

	<p>高さについては、避難場所は15mであります。この高さの設定は津波の浸水からいったら少し高いのですけれども、こちらの方は富士山が見える高さをとらえて設定してあるときいております。</p> <p>もう一つの福田南の避難タワーにつきましては、これも先程ございましたように、今まで磐田市が整備してきましたタワーと同様の構造で、鉄骨造で非常にシンプルな形になっております。こちらの避難場所の高さは5mで、津波の浸水高を踏まえまして高さを設定してございます。以上雑駁ではございますが説明と代えさせていただきます。</p>
議長	<p>この2施設についての追加をする修正ということで、本日お集まりいただいた議案となります。</p> <p>何かございますか。川島さんどうぞ。</p>
自治会連合会	<p>雁代の斬新的な施設につきましては、観光的にも注目を集めるのではないかなという風に思うのですが、防災とは直接関係ないんですけれども、食の拠点ができて、この施設ができて訪れる観光客の人たちが施設の避難ゾーンに入れるのかどうか、要するに展望タワーにです。そういう風に使えると、また意味出てくるのかなという風に思います。</p>
議長	<p>その通りです。そのことを今、避難人数400人という風に見ています。</p>
危機管理監	<p>避難困難人数を327人という数字が記載してございますが、一応これは観光客等を含めての数字を入れておりますので、そういうご理解を頂ければと思います。</p>
議長	<p>他に如何でしょうか。</p> <p>この施設につきましても、議事の後に報告します静岡モデルにつきましても、本当に関係者の皆さんに力を貸していただきまして、今日がありますので、後々市民の皆様から、「あの時が大きな分岐点だったな。」と言われるように頑張りたいなと思っておりますけれど。</p> <p>ご質問、ご意見よろしいでしょうか。</p> <p>それではないようでございますので、皆さまにお諮りをしたいと思えます。この案件につきまして、原案の通り承認することにご異議はございませんでしょうか。</p>
委員	<p>異議なし。</p>
議長	<p>異議なしということでございますので、「磐田市地域防災計画 地震・津波災害対策編」の修正案は、原案のとおり承認することに決定させていただきます。</p> <p>それでは、報告事項に移りたいと思えますが、磐田市海岸堤防整備計画</p>

<p>事務局</p>	<p>についてご説明を申し上げます。</p> <p>それでは、静岡モデルによる磐田市海岸堤防整備計画について、お手元の資料A4のものとA3判の地図が付いているものがありますので、そちらをご覧ください。</p> <p>まず、静岡モデルですけれども、平成25年6月27日に静岡県第4次被害想定第1次報告が出ております。第4次地震被害想定の特徴としましては、レベル1、レベル2という2段階の災害想定がもたれておりまして、レベル1というのが、東海地震や東海・東南海・南海の3連動を想定したような発生頻度が比較的高い100年から150年に1回くらいのものである。それから、レベル2というのが、発生頻度は極めて低いのですけれども、発生すれば甚大な被害をもたらすということで南海トラフの巨大地震を想定したものとなっております。</p> <p>国、県の整備というものは、ハード整備については先程いいましたレベル1の対応、レベル2については避難タワーとかビルに逃げるとかというようなソフト対策というもので進んできた訳ですけれども、静岡県は沿岸線に非常に多くの人口、資産とかを抱えておりまして、津波の到達時間も短いということもありまして、静岡県特有の課題に対しまして既存の防災林を嵩上げしたり、砂丘を整備したり、道路を嵩上げしたりとかそういったもので安全策を向上させるということで、静岡県のアクションプログラムの中でも、静岡モデル推進検討会というものを立ち上げて検討していくということになります。</p> <p>磐田市につきましては、天竜川以東、天竜川から御前崎市までのところで、中東遠地区ということで検討を進めてまいりまして、磐田市における静岡モデルにつきましては、浜松市でやっております防潮堤のイメージも強いことから、レベル2からの内陸の安全性、安全度を向上させるということで、海岸堤防の整備ということで進めてまいりました。</p> <p>磐田市の基本方針です。こちらは、静岡モデル推進検討会の検討結果を踏まえて実施するということで、堤防を遠州灘海岸線に盛土構造で設置を行います。堤防の高さはレベル2に対応しまして、せり上がりを考慮しまして海拔14mとしております。3点目としまして断面形状ですけれども、宮城県の岩沼市の「千年希望の丘」という実際津波に耐えた丘がありますけれども、その断面を参考としまして法勾配を1対3、天端幅5mということで計画を立てております。</p> <p>2つ目、静岡県施工の太田川掘削の発生土を使用しまして実施していきます。やはり、大量の土を使う訳ですけれども、なるべく発生土、流用土を使いまして事業を進めていきたいということで実施しております。それから、まず堤防の高さの低い部分、早期着工可能な部分ということで、竜洋の海洋公園の部分です。それから太田川河口の右岸の部分ですけれども、こちらが松林の部分に比べまして、コンクリート堤防になっておりまして、高さが6mから7mくらいしかないものですから、中間の松林が約9mあ</p>
------------	--



るということで、その低い部分をまず先行していくといことと考えております。

それから、整備は段階施工といたしまして、第1段階は各地点におけるレベル2の津波高が9m以下の所は現状の保安林堤防の高さである9mに整備するという事です。少し分かりにくいかもしれませんが、先程いいました先行してやる部分です。竜洋の海洋公園の部分と太田川堤防の右岸側を、まず保安林の高さ9mに1回揃えてしましまして、それがそろえ終わったら、その後嵩上げをしていくというイメージでいただければと思います。

それからこの事業、通常、土木工事業業というのは、予算がしっかりしておりまして、計画もしっかりしているという中で、進めていく訳なのですが、とにかく早期に着手したいということで、今日、県の皆様もお見えになっておりけれども、まだまだ未確定の部分が多いです。今後、構造的な検証とか、それから県との協議を進めまして計画の内容の精度を上げていくということで、事業を進めていきたいと思っております。

こちらが、先程いいました岩沼市の「千年希望の丘」のある部分と遠州灘の地形を航空写真で比べたものですが、どちらがどちらか皆さんお分かりになられるでしょうか。非常に似ています。上が岩沼になります。下が磐田市です。阿武隈川、天竜川ということで川がありまして、名取川、太田川ということで両方大きな川に挟まれております。それから、上が閑上漁港、下が福田漁港ということで本当に地形がよく似ております。

今この部分が「千年希望の丘」ということで、約10km整備を進めているということでありまして。こちらが実際の「千年希望の丘」です。津波がこのラインまで来ております。芝が生えている部分が前面です。海側になります。つつじが枯れたいた方が裏側になります。表からきている津波に対しては、全然びくともありません。ひき波の時に少し削られていますけれども、構造物自体は影響を受けていないということで、津波に耐えている。実際東屋の方にいた方が助かっているという実績があります。このように破壊されておられません。

こちらが今現在の「千年希望の丘」です。山になっている部分、あそこが丘になっておりまして、下に見えますこの土台の部分、こちらが園路になっておりまして、下の写真で見ていただくと分かりますけれども、小高い山をずっと園路で結んでいるという形になっております。そこへ植樹をかけまして整備を進めております。先日、岩沼市の方へ調査視察ということで行ってきましたが、そこにも書いてあります。実際に、この「千年希望の丘」の整備計画を立てるにあたっていろいろな学者さんや大学の先生も入っている訳ですが、まず、実際に津波に耐えたことを重視している。それから、まずやってみてそれから実証実験を行い、精度を高めしていくというところが、磐田市と非常に似ているかなと思っております。

こちらが「千年希望の丘」の断面図です。磐田市の断面図と非常によく似ております。

こちらが津波で出ました堆積土砂です。津波で陸地に置いて行かれた土を盛っているような形で、下の部分は震災がれきを砕いて下に敷き詰めているというような形になっております。

こちらが、磐田市の整備計画になります。先程説明しましたが、こちらの竜洋海岸のところ、太田川右岸ということで、赤い部分が平成26年度から着手するところになります。全体の延長が約1.1kmということになります。総事業費が約30億円、事業期間が約20年ということで、地元説明も昨日、今日川島支部長も見えておりますが、福田に入りまして、その前に竜洋にも入っておりますが、その20年をもう少し早くできないかという要望をいただきますが、先程もいいましたようにこの事業の進捗というのは、やはり膨大な土の確保から始まりますので、なるべく土の確保ができるようにする中で、この期間が少しでも短縮できればなという風に考えておりますけれども、それには皆様方のお力を借りなければいけないかもしれません。

こちらが、拡大になります。竜洋の海洋公園の中ですけれど、まず、今年度から400m位の区間を、まず、片付けまして、その後そのまま引き続き、1,380mを整備しまして、天竜川に接続させるということで、この部分海拔約6m位しか現況はありませんけれど、これを9mまで上げていくということになります。津波に対する効果は発揮できるかなと考えております。断面ですね、先程の岩沼と同じような形になります。

それから、こちらが太田川右岸になります。延長が300mです。こちらから26年度から始めて3年以内には完成したいなという風に考えております。

先程、市長からもありましたけれども、8月18日に太田川の掘削残土の工事が始まるということで、竜洋の現場におきまして起工式と安全祈願祭を行っております。

あとこの事業は、皆様からの基金をお願いしているということで、ここにもありますけれども、平成26年6月30日に、今日もお見えになっておりますけれども、自治会連合会をはじめ商工会議所、商工会、遠州中央農協等の皆さんが役員となりまして、磐田市津波対策事業基金推進連絡会というものを発足しまして、今後、また皆様にこの事業にご協力をいただけるようにと基金の方を募っていきたいと思います。

それから、先程も申しましたように、とにかく土が足りません。事業所さんの方でも、もし工事等がございまして土が出るよという話がありましたら、是非また危機管理課の方へご一報いただければと思います。

以上で説明を終わらせていただきます。

議長

お手元に資料があると思いますので、何かこの際、これはどうなっているのか等質問がございましたらお願いいたします。如何でしょうか。

中部電力

こちらの整備計画案の資料の見方なのですが、上に白抜きの数字が

	<p>有りますけれどもこれはどのような数字なのでしょう。</p>
事務局	<p>白抜きの数字につきましては、その地点毎のレベル2の津波の高さになりますので、たとえば天竜川のところですと、<math>L2 = 8.97</math>と書いてありますけれども、津波の高さが海拔8.97mできますということになります。</p>
中部電力	<p>津波の予想高さということですか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
危機管理監	<p>磐田市で約12mといわれておりますが、この図で見ますと11.6という数字が左から4つ目にあると思いますが、その地点が四捨五入して約12mということになり、ここが磐田市で一番高い所になると理解していただければと思います。</p>
中部電力	<p>それともう1点よろしいでしょうか。現行レベル2の津波高が海拔9m以下のところを先行して9mの高さまで整備するということですが、これが、竜洋の海洋公園と太田川の河口の2か所だということに理解すればよいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、その理解で結構です。</p>
中部電力	<p>ありがとうございました。</p>
議長	<p>他にいかがでしょうか。本田先生どうぞ。</p>
医師会	<p>磐田市医師会の本田と申します。全然とんちんかんな質問かもしれませんが、この海岸線に直接向かい合う堤防を整備するのはいいと思うのですが、太田川の河口から、天竜川の河口から直接入りこんでくる津波に対して太田川河口近辺の堤防の高さとかは実際問題ないレベルなのでしょう。</p>
議長	<p>自然災害ですので、機械の部品ではありませんので私たちは国から公表される知見を持って、整備をすることになってきますので、天竜川の方も太田川の方もその最大津波が来ても越流しない、要するに越えないという前提になっております。ただ、一番最後に報告のありました南海トラフの2次報告、第4次想定の中での2次報告の中では、太田川の両岸、右岸左岸はちょっと弱いところがあるので、それはあいさつのときに申しあげました、3年で県の方で対策をとるということで、すぐに工事着手をしていただいて、やっておりますが、その間に、避難タワーを整備しようとする所が、その浸水域になっておりましたので、今回修正案としてお願いしている流れとなっております。</p>

<p>医師会 議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>実は皆さんの中でも職場等々で、浜松はコンクリートを混ぜてやっているのだけれども、土を盛るだけでいいのか。いろいろなお話が雑談、懇談の中であろうかと思えます。私は、袋井市、掛川市もそうなのですから、今できる最大限のことを精一杯やるということで、土の確保も今の時点で全量確保できている訳ではありません。今日、河川国道事務所の関係の方もいらっしゃると思いますが、天竜川の土も協力するよと言っていたと思いますので、できる限り、この事業費の中には土の購入費用は入っておりませんので、購入費用が入っていないということは運搬費用も入っておりませんので、そういう意味では、もしこれを、土を購入したとするという仮定をした場合、約180億円位ですので、レベル2の対策は、国はしないともう法律で宣言しておりますので、そうすると市の単独事業としてやるなんてことは、この県の事業としてやるのも難しいという中で、1年以上かけて協力しながら立てたこの案が静岡方式という案になるのです。たまたま、閉上のこの「千年希望の丘」というところが、同じような整備をしていて、それが津波の時に、若干ひき波で壊れた、土を持って行かれたところがあるのだけれども、現存しているというところを参考にしているということが、先程職員が説明したところにあるのでございます。</p> <p>どうか遠慮なく述べてください。どうぞ堀内さん。</p>
<p>建設業組合</p>	<p>磐田建設事業協同組合の堀内です。お世話になります。</p> <p>先程、危機管理課の説明の最後の方に、残土の受け入れは危機管理課の方で一括して行うという話が少し出ましたが、例えば、民間工事などで、組合員で100m<sup>3</sup>とか1,000m<sup>3</sup>といった小さい単位でもそういうものの取りまとめをしていただけるのかどうか。それとまた、今日はここへ行って来てくれというような具体的な話になるとそういう話は危機管理課の方で一括してやって頂けるのか。組合員にそのような旨を伝える都合もあるものですから、ぜひともお願いしたいと思います。細かい点はこれからということであれば、それでも結構ですのでお願いいたします。</p>
<p>危機管理監</p>	<p>土が欲しいのは山々なんですけれども、全てを危機管理課の方でまとめるというのは難しいので、まずは相談をいただければと思うのです。実際に工事については、建設部門で進めていますので、そちらの方との調整もありますし、とりあえず今話に出た100m<sup>3</sup>とかというのが、受け入れる時にどういった形でやるかといったことは、はっきり決めてないものですから、まずは相談を頂ければと思いますので、例えば民間の開発の中で、使えそうな土が出そうだけれどという情報からまず頂ければと思います。そんな形で情報を流して頂ければと思います。</p>
<p>建設業組合</p>	<p>磐田市から出る残土はどのような形なのですか。これも100m<sup>3</sup>以下とか</p>

<p>危機管理監</p>	<p>そういうものもありますね。</p> <p>それも実際にはどのような形で運ぼうかも決めてないのですけれども、今竜洋公園のところについては、これからやっていくところもありますので、とりあえず借り置きということもできますので、そこは少ない土量であっても借り置きしておいて後で敷きならしということもできますが、一度相談させていただいて具体的にどんな方法がとれるかを、また建設部門と一緒に話をしていきたいと思っておりますので、そのような形でのご理解をお願いいたします。</p>
<p>議 長</p>	<p>堀内さんの申し出は大変ありがたいです。臨機応変に対処したいと思っておりますが、実は私たちも裏舞台の話をさせて頂きますと、土の確保も全量できていない見切り発車みたいな形で、安全祈願祭を行っていいのかとか各方面との話もなかった訳でもありませんが、1日も早く着手、先程の地元説明をしましたら、私も今地域を回って、直に一般の市民ではなくてそこそこの役職を持った方でも、当初のころは何十年かかってもいいから早く1日でも早くと言っていた方が、20年では長いと言い出したものですから、気持ちは分かるけれども、とにかくできることを精一杯頑張るのでと言ったら、笑いながら話を、つい先日したばかりですけれども、その位沿岸部の方は思いがあるでしょうし、決してこれは嫌味とか何かでいう訳ではなくて、天竜川を挟んで西隣りの自治体が、とにかく多額の桁の違う寄附とああいう形で整備手法を決めて着手してしまっているものですから、これは一般の市民がもう少し早くと意見を述べるのも、決してそれはイレギュラーではないと思えますし、避難タワーを作りました時にも、うちはスロープがないのです。スロープをなぜ作らないのだ。そういう検討もしたのですが、実はスロープを、坂を登って行くときに、何かがあって避難タワーを利用する訳ですので、悠長な形ではなく、ちょっとぶつかった時に真っ逆さまに転がって行ってしまうということを考えると、大人2人が両脇を抱えて、緩やかな階段ですので、そちらの方がいいだろうという選択を磐田市はさせていただいたということなんです。ですから、地形も違えば、切り口も違えば、整備手法も変わってくるという中に、この海岸堤防の嵩上げはこのような手法をとらせて頂いたということが、裏も表もない正直なお話でございます。</p> <p>他にございませんか。堀内さんどうぞ。</p>
<p>建設業組合</p>	<p>これは組合の中の会員が、先程市長がおっしゃった通り浜松の方の関係で、浜松が先にできた場合に、磐田が途中半端の場合には、どの程度の津波の影響があるのかというのはどうなのでしょう。ちょっと教えてください。</p>
<p>議 長</p>	<p>今日、関係者もない訳ではないのですけれども、一応は津波が来て跳ね返って東側に影響があるということはないという知見は出ております。全く</p>

危機管理監	<p>無いとは言いませんが。そういう見解が。</p> <p>数 cm 津波高が上がるという影響があるということです。</p>
議長	<p>数 cm ですので、その通りかどうかは別にして、国が出している知見はそのようになっていますので、これは、つめていくと僕らも答えられないのですよ。国が、最大津波高が来たときに 11.6 m、スズキのテストコースの所ですが、それも本当に 11.6 かどうか、ひょっとしたらそんなに来ないかもしれないしということもあるでしょうし、そんな状況下ですので、今職員が言いましたが数 cm という影響です。浜名湖の所も湖西の市長も心配していましたが、実はそんなに心配は無いのだという知見も一方で出ているというのが見解になっているのでしょうかね。</p> <p>他にいかがですか。</p> <p>それでは堤防の嵩上げにつきましては、以上で切らせて頂きますがご意見等々ありがとうございました。</p> <p>それではせっかくこのようなメンバーでお集まり頂いておりますので、この堤防の嵩上げだとか、それから修正案以外のことでも結構ですので意見交換に入りたいと思います。今、広島での災害が起こっている最中ですので、早く復旧して欲しいなという思いもあって、あれがもしも磐田に来たらという思いも私だけではないと思いますし、これは全国の自治体のトップが同じように描いている、思っている、思いかなとも思います、どうか遠慮せずに手を挙げて、意見交換に入りたいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>如何でしょうか。</p> <p>何か国の方からお伝えしたいことはございますでしょうか。</p>
国道河川事務所	<p>特にありません</p>
議長	<p>県の方から大勢いらっしゃっていますが何か補足ございませんか。</p> <p>ないです。</p>
議長	<p>どうぞ、本田先生。</p>
医師会	<p>あまり大きなテーマでなくて申し訳ないのですが、災害時の救護所の活動の在り方についてです。医師会としては救護所に地元の医師が出向いて発災時は救護活動にあたるということで毎年訓練を 9 月と 12 月に毎年 2 回やっているところですが、特に 12 月に行われる救護活動で、各自治会毎に救護所の訓練を行っているところではありますが、いつも私、福田にいるものですから、福田の 2 か所、小学校と 150 号線の南のリフレU という施設でやっているのですけれど、リフレU に参加される方から、こんなに南で救護所をやっている皆来るのだろうか。その辺は、市としては救護所の設置の場所</p>

	<p>について、今のままで特別な見直しをしないのか。何か新たなお考えがあるのか。つい数カ月前にもそんな話をしたことがあります。もし何か計画がありましたら教えてください。</p>
<p>危機管理監</p>	<p>実はですね、救護所に限らず指定避難所と救護所、後は福祉避難所ということも含めまして、関係する課と合同の会議をもちまして話をしております。救護所につきましては健康増進課が主管課で話をしているのですが、今の11か所を、そのままやるかどうかも含めて合わせて検討している中で、まだ最終的な結論には至っていないのですけれども、ただ発災直後すぐに救護所を開設ということで、各お医者さんとか看護師さんに呼び掛けているんですが、福田地区でいえば、まずは福田小学校のところを拠点の救護所にしようかという話が出ている中で最終的な結論には至っていないんですが、救護所の数を減らすとか増やすという話は、地域の方との関係もありますので、そこら辺は難しい問題でまだ結論には至っていないのですが、そんな話をしているという段階です。各地区に今の救護所が本当に全て必要なのかということもありますので、そういう状況を見た中で地域毎に拠点的な救護所を設けるというのも一つの選択肢になると考えておりますが、まだ結論を固めているという状況ではないです。</p>
<p>医師会</p>	<p>リフレUというのは、150号線よりかなり南にありますので、それを皆さん気にかけているのですけれど。</p>
<p>危機管理監</p>	<p>重々そういった話も伺った中で検討しております。</p>
<p>議長</p>	<p>今、本田先生がおっしゃった様に、ドクターも戦力ですし看護師、保健師も皆戦力ですし、我われの子供のころと違って自宅で開業している先生ばかりではありませんので、それやこれやを考えますと賛否両論あるかと思いますが、その時にえいやーでなかなかやりにくいこともあるのですけれども、避難所が45で職員が3人ですけれども、そこで130人程とられてしまうんです。そうすると、本当に平時の時の計画が、3.11以降3年半が経って、本当に非常時の時に、もう一回見直して、厳しいこともあるけれど、災害、大災害が起こったときの避難対策を真剣に考えないといけないと思っておりますが、自分の近くに救護所があると置いておいてくれという思いも出てくるし、なんとなくややこしいところもありまして今の危機管理監の答弁になった訳ですけど、私が一番心配しているのは職員を含めて人的確保ができるのかなということです。ただ、地形的に見まして磐田市が南から北の端まで全滅するという災害というのはあり得るだろうかと思っておりますので、そういう意味では、どうすれば臨機応変な対策ができるかという部分が、管理監が今言ったようなことになるかと思えます。真剣に考えます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>川島さんどうぞ</p>

自治会連合会	<p>只今の救護所の関係も、関係ない訳ではありませんけれども、3.11以降ですね、避難タワー、避難ビルの指定、学校の屋上の活用、それから太田川の堤防の液状化による崩壊を食い止める工事、これらが着々と進んで、今またこういう観光と合わせた施設を作っていただけということで、本当にありがたいなと思っております。</p> <p>昨夜も福田地区で防潮堤の説明会があった訳ですけれども、18日に安全祈願祭をやって着手したということだけでも、いずれ20年かかるかどうかは別としまして、安堵感といいますか、やれやれと。海岸の近くに住む人は半分あきらめの気持ちがありましたけれども、自治会連合会として感謝を申し上げなければという気持ちで一杯です。ありがとうございます。</p>
議長	<p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは無いようでございますので、意見交換は終了とさせていただきます。</p> <p>以上で、本日の流れがすべて終了いたしまして、ご熱心に参加していただきましてありがとうございました</p> <p>今後も是非ご協力をよろしくお願い致します。</p> <p>それでは進行を事務局の方へ戻します。</p>
事務局	<p>それでは、本日の案件はすべて終了いたしました。</p> <p>防災会議で審議した結果につきましては、県へ報告をさせていただきます。以上をもちまして、磐田市防災会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。</p>